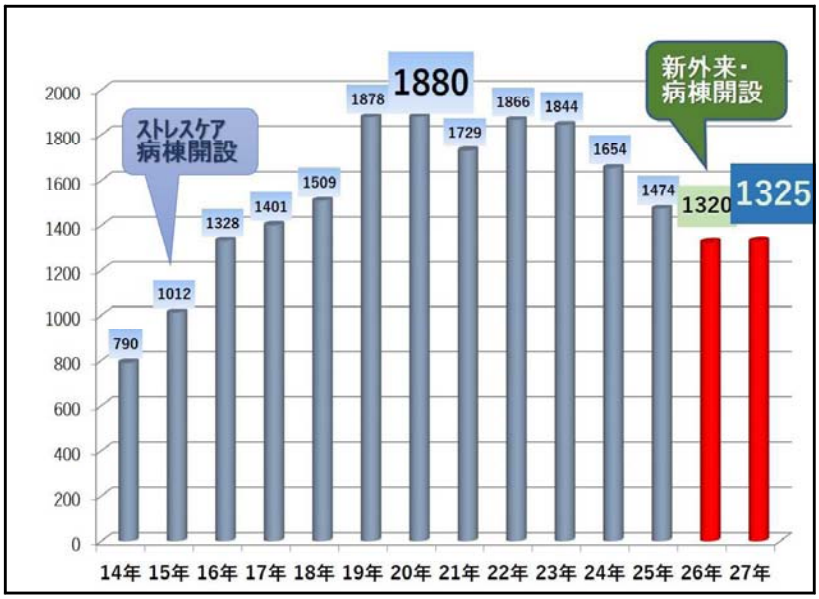
平成27年度　患者動向

こころと身体のクリニック
医療法人社団
五稜会病院

新患統計

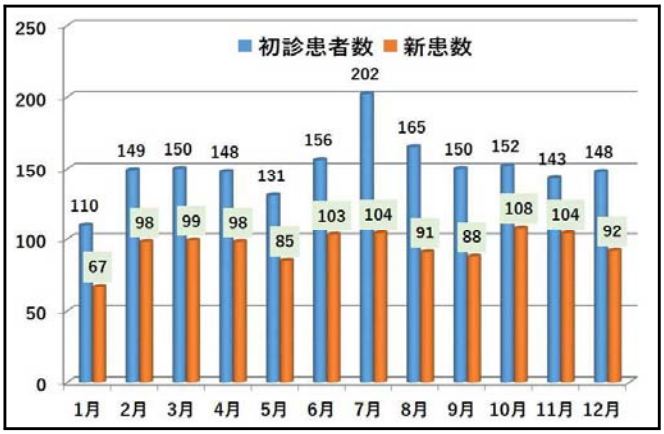
1　年度別新規患者数

平成 27 年度の新規患者数は 1325 人で、平成 25 年の 1474 人、平成 24 年の 1654 人と比べてかなりの減少しているものの、平成 26 年の 1320 人と横ばいであった。平成 26 年 6 月からは新患は予約制している。平成 26 年 5 月からは新棟が完成し新外来での診察が開始された。ﾛﾋﾞｰ待合室もゆったりとなり、ｺﾝｼｪﾙｼﾞｭの活躍で診察室までの誘導もｽﾑｰｽになった。かつてのような混雑は無くなっている。



2　月別初診・新規患者数

初診患者が多いのは 7 月である。例年、年金の現況届けのための受診が多いためである。8 月がやや多いが、全体的には同様である。例年 1 月、5 月もは少なかった。新規患者数（当院に初めての受診者）は毎月 100 名前後である。年間 1200 人～ 1400 人くらいになる。外来のコマ数の問題もあり、平成 26 年度から新規患者さんの受診は予約制としている。予診は研修医、心理士、精神保健福祉士、まれに外来看護師がとっている。



3　月別延患者数、実人数、時間外受診者数

1 日あたりの外来者数は約 150 人である。月別では 6 、8、10 月が多い。時間外受診者数は 143 人であった。ｽｰﾊﾟｰ救急算定にあたり、年間 200 人以上が基準となっているが、少なかった。これは、電話対応で済んでいることも言える。必要な時間外受診は何時でも診療するが、予防医学も大事であると思われる。実人数は 2500 弱である。

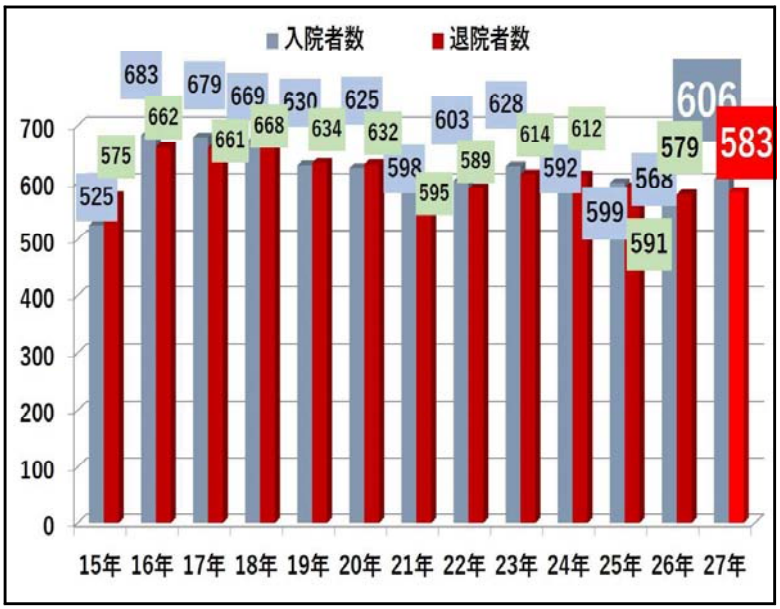
4　20歳未満加算数

平成 27 年度は延べ 1,117 件であった。平成 26 年度と横ばいである。平成 20 年は 2,393 件であったので減少している。平成 27 年 11 月から札幌市で児童思春期のｺﾝｼｪﾙｼﾞｭ事業がはじまった。札幌市内では 5 ヶ所の医療機関が窓口となった。当院は札幌市東区・北区を担当することになった。

入院患者統計

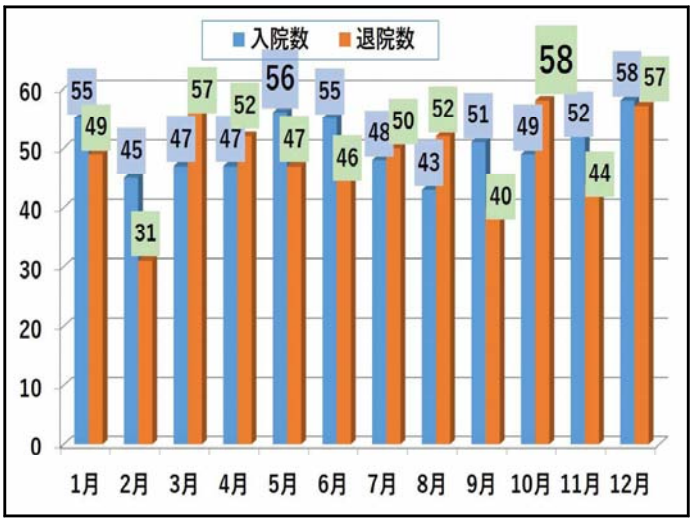
1　年度別入院者・退院者数

平成 11 年～ 14 年までは入院退院者数は 400 人台で推移していた。ｽﾄﾚｽｹｱ病棟がｵｰﾌﾟﾝした平成 15 年に 500 人を越えた。平成 16 年度の急性期病棟運用時からは入院退院ともに 600 人台であった。平成 26 年の入院は 568 人と最も少なかったが、平成 27 年度は 606 人であった。病床数は 193 床と変わらないため、また、札幌市内には多くの精神科病院が急性期患者の入院を受け入れいてるため、これ以上の入院数は救急病棟算定までないだろう。



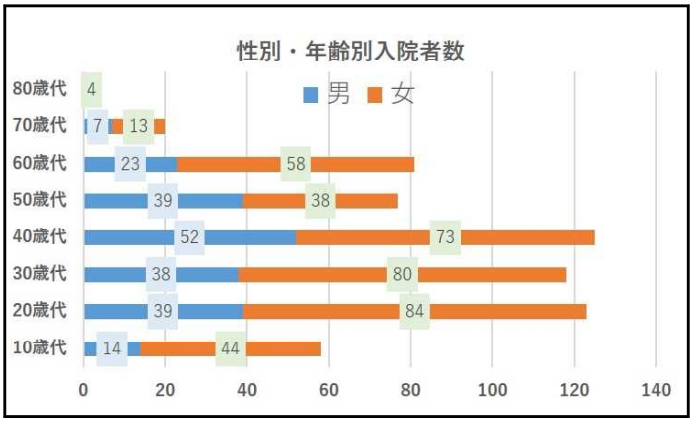
2　月別入院者・退院者数

月別の入院者で最も多いのは 1 月、5 月、6 月、12 月であった。少ない月は、2 月、4 月、8 月であった。年度による違いはないようである。退院は 7 月が最多で 62 人、12 月も 54 人と多かった。退院は月末に集中することがあり、平成 22 年 4 月からの全体ﾐｰﾃｨﾝｸﾞあるいは看護師長同士でのﾍﾞｯﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾙを行っているが、なかなか上手く行かない。患者さんの希望が優先するのはもちろんであるが、病院経営とのﾊﾞﾗﾝｽを上手く考慮しながらﾍﾞｯﾄﾞ調整を考える必要もある。



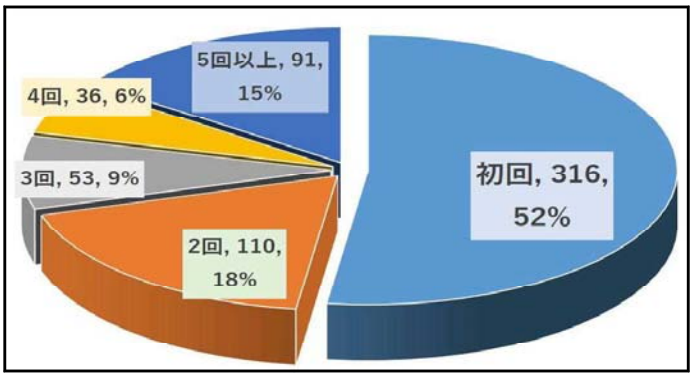
3　性別・年齢別入院者数

性別では前年同様に女性が多く 6 割 5 分を占める。入院者の年齢は 12 歳から 83 歳までで平均年齢は 40.2 歳と前年と同様である。年齢層は 20 代、30 代、40 代が多い。20 代、30 代では女性の比率が高い。10 ～ 40 歳代で 7 割を占める。10 歳代は 58 人（9.6 %）と 1 割である。50 代、60 代は 1 割強、70 歳以上は 24 人（4%)、80 歳以上になると 4 人しか入院していない。



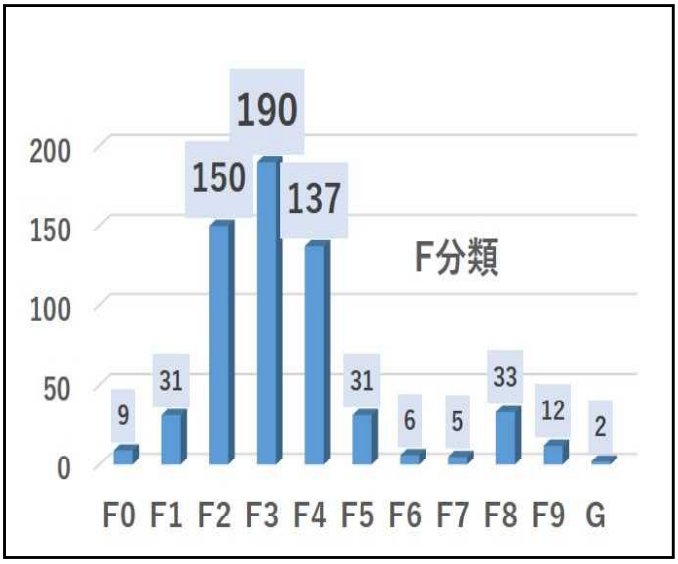
4　入院回数

初回入院が 316 人（52.1 %）である。2 回目が 110 人（18.2%)、3 回目が 53 人(8.7%)であった。5 回以上の入院者は 91 人(15.0%)。新規入院（精神科入院歴が 3 ヶ月以内にない）は 560 人(92.4%)で殆どは新規での入院となっており、再入院は 46 人であった。再入院の分析も必要だ。



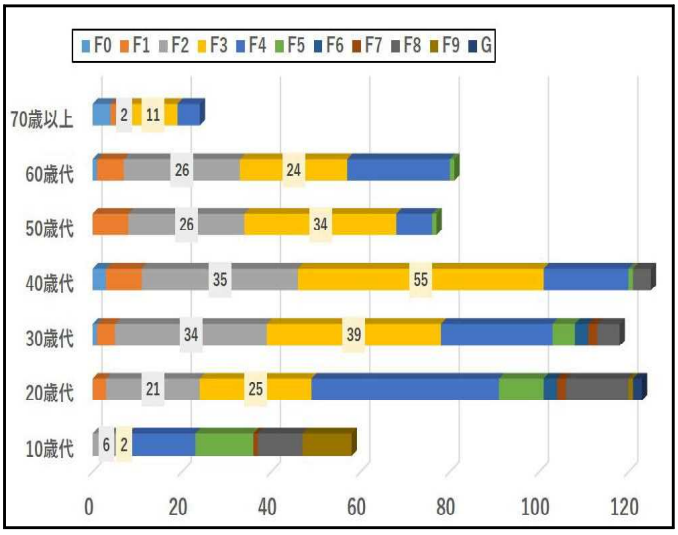
5　入院時診断

最も多いのは F3　(気分障害）で 190 人(31.4%)と 3 割を占める。次いで F2　（統合失調症圏）が 150 人(24.8%)と 1/4 である。F4　（神経症圏）は 137 人で 2 割強、前々年、前年度よりも増えている。F6　（ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害）は 6 人(1.0%)で昨年度よりも減少している。あまりﾎﾞｰﾀﾞｰﾗｲﾝの方を見かけなくなってきた。F8（発達障害圏）が 33 人（5.4%)と前年の 19 人より大幅な増加である。他 F1（ｱﾙｺｰﾙ依存症）は 31 人と前年度並、摂食障害等の F5 (生理的障害）は 31 人(5.1%)と大幅増、ここには睡眠障害も含まれる。



6　年代別診断分布

年代別の診断名の分布を示す。20 歳代から 60 歳代にわたって F3（気分障害）が多い。最も多いのは 40 代の F3 で 61 人、次いで 30 代の F2(統合失調症圏）で 52 人である。F2 は 20 歳代から 60 歳代まで幅広く分布する。F4（神経症圏）は 20 代、30 代に目立つ。30 歳代は F3、F2 の比率が高い。F1（ｱﾙｺｰﾙ依存症）は 30-60 代まで幅広い。F8（発達障害）は当然であるが、10、20 代、30 代が多い。F6（ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害）は最近は減少傾向にある。



7　入院形態・入院病棟

任意入院が 416 人（68.6%）と 3 分の 2 で、医療保護入院は 180 人（29.7%)と 3 分の 1 であった。なるべくは本人の希望での入院が望ましい。緊急含め措置入院は皆無、応急入院 1 人。札幌市の措置入院の適応の厳しさが感じられる。鑑定入院は 9 人と前年の 18 人から半減、医療観察法の鑑定入院はなし。入院病棟は 2 病棟が 286 人（47.2%)、5 病棟が 284 人（46.9%)、であった。療養の 1 病棟は 22 人、3 病棟は 14 人を受け入れている。

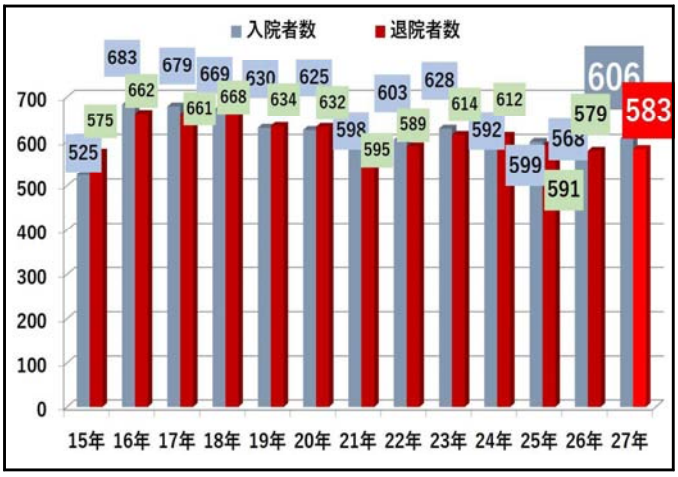
8　紹介元病院・ｸﾘﾆｯｸ(敬称略)

紹介元の病院、ｸﾘﾆｯｸを表に示す。606 人の入院のうち 307 人（50.7%)が紹介患者である。平成 26 年、27 年度とともに、こころﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸが 14 人、18 人と最多であった。次いで、札幌医大病院、大通心療内科ｸﾘﾆｯｸ、三浦ﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ、札幌ﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ、麻生ﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸの順である。連携しているｸﾘﾆｯｸのｻｯﾎﾟﾛﾌｧｸﾄﾘｰﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ、さっぽろ元町ﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ、南平岸内科ｸﾘﾆｯｸ、みやのさわ心療内科も多い。平成 27 年度はなかまの杜ｸﾘﾆｯｸからの紹介が 5 人と増えていた。鑑定入院では、札幌地方検察庁からの依頼が多いが、9 人のうち 2 人は函館地方検察庁からの依頼であった。精神科ｸﾘﾆｯｸからの紹介が多く、病病・病診連携をはかるためにも紹介患者は可能な限り受入ることにしている。まあ、退院後は紹介元のｸﾘﾆｯｸに戻るようにしている。

退院患者統計

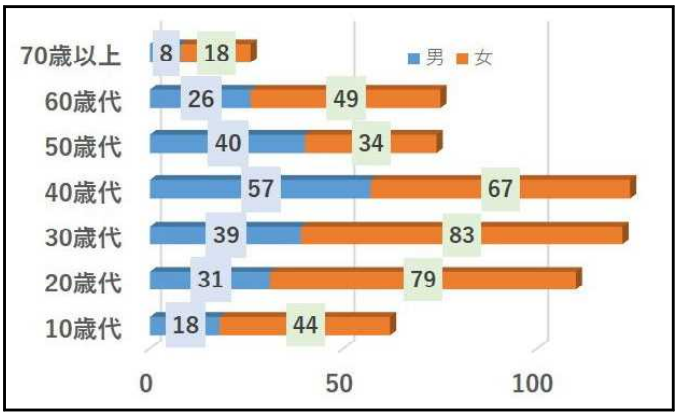
1　年度別退院患者数

年度別の退院者数はここ数年は 600 人前後である。平成 27 年度は 583 人と、平成 26 年度の 579 人とと同様であった。徐々に退院数は減っているが、退院者数は入院数に相関する。当院では、長期入院者の退院支援も行っており、退院者の状態、退院先などの詳しい情報を分析する必要がある。当院は新規入院者が 9 割を占めているが、退院後に早期の再入院がないようなｻﾎﾟｰﾄ体制も大事である。



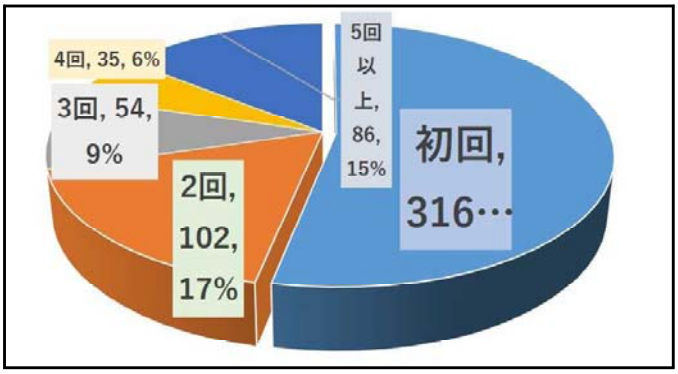
2　年齢・年代別・性別退院患者数

年齢は 12 歳～ 92 歳、平均年齢 41.2 歳であり、年齢層は昨年よりも若干年齢があがった。年代別では 20 歳代～ 40 歳代が多く、この年代で 6 割を占める。10 歳代は 62 人(10.5%)と前年度と同様である。70 歳以上は 26 人（4.4%）と昨年と同様である。性別では女性が 2/3 を占める。年代別では 10 歳～ 30 歳代での女性比率が高いのは例年同様である。



3　入院回数

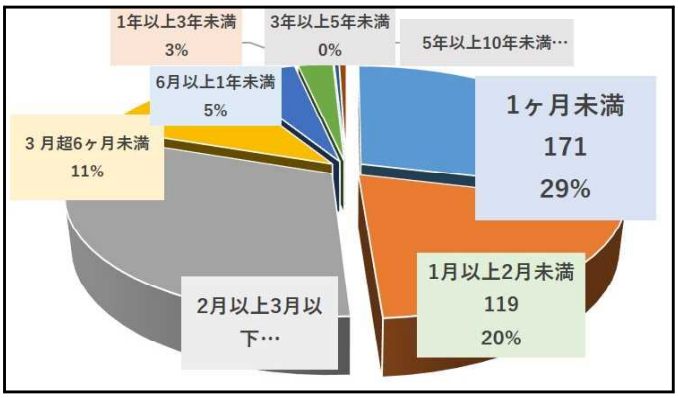
1 ～ 23 回、平均入院回数 2.6 回である。初回入院者は 316 人（53.3%)である。再入院のうち、2 回が 102 人（17.2%）であった。3 回が 54 人（9.1%)、5 回以上は 86 人(14.5%)である。10 回以上の入院者は 24 人(4.0%)であった。18 回以上の入院者は 3 人（重複含む）で統合失調症、双極性感情障害、ｱﾙｺｰﾙ依存症である。



4　入院期間

1 ～ 3,124 日、平均 96.0 日である。期間別では 1 ヶ月未満が 171 人（28.8 %）、1 ヶ月以上 2 ヶ月未満が 119 人（20.1 %）、2 ヶ月以上 3 ヶ月未満が 186 人（31.4 %）であった。3 ヶ月未満の退院が 8 割、6 ヶ月未満が 9 割、1 年未満が 96.6 %である。3 年以上は 5 人で昨年の 9 人よりも少ない。

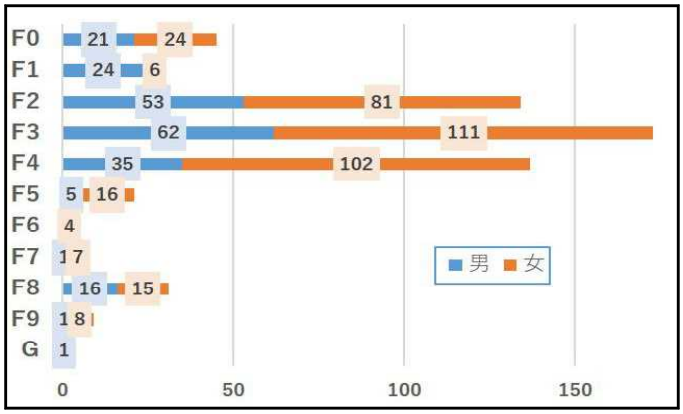
1 人は身体合併症管理の転院である。



年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	退院状態	転院	病院名	全体の満足度	家族の満足度
40歳代	男	1462	1	F0	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	無	当院外来	3	3
70歳代	女	1104	1	F0	5病棟	3病棟	任意	医療保護	軽快	無	当院外来		
50歳代	男	2468	1	F2	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	無	当院外来	3	
60歳代	女	1999	1	F0	2病棟	1病棟	医療保護	任意	軽快	無	当院外来	3	
60歳代	男	3124	6	F2	3病棟	3病棟	医療保護	任意	治療中断	入院	勤医協中央病院		

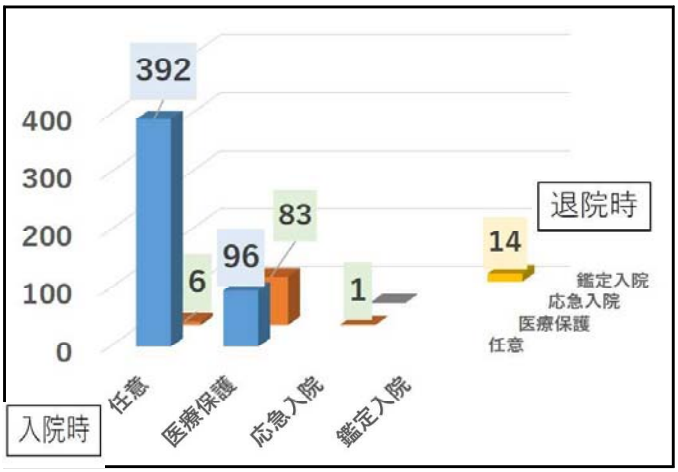
5　退院時診断

F3（気分障害）が最多で 173 人（29.2%）である。これは前年度と同様である。次いで F2（統合失調症圏）が 134 人（22.6 %）、F4（神経症圏）は 137 人（23.1 %）であった。F1（ｱﾙｺｰﾙ依存症等）は 30 人(5.1%)、女性は 6 人と少ない。F6(ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害）4 人(0.7%)と減少している。F5（摂食障害等）は 21 人（3.5%)と増加傾向にある。F0（認知症）は 45 人(7.6%)であるが、器質性の疾患が多い。F8（発達障害）は 31 人（5.2%)とさらに増えている。



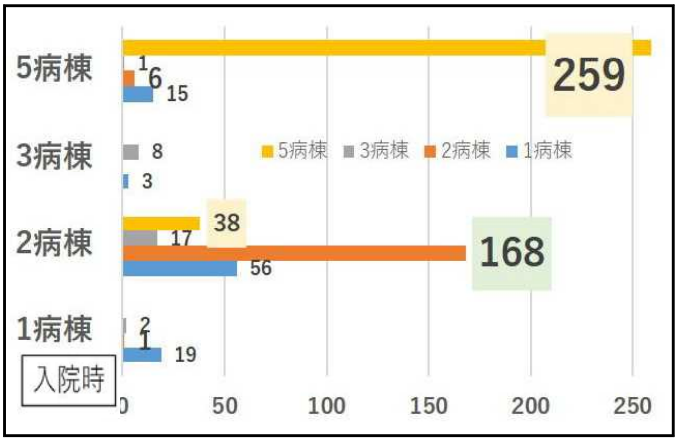
6　退院者の入院時および退院時の入院形態

入院時の入院形態は任意入院が 398 人（67.1)を占め、179 人（30.2 %）が医療保護入院である。退院時に医療保護入院は 90 人（15.2%）である。医療保護入院での入院者の半数以上が任意で退院となっている。本人の主体的な治療意欲がないと病状の改善も得られない。極力、任意入院では治療が望ましい。措置入院者はなかった。札幌市の措置入院のあり方に検討を促したい。鑑定入院は 14 人と多かった。



7　入院および退院した病棟

297 人（50.1 %）と半数は 5 病棟からの退院である。2 病棟入院後に 5 病棟に転棟して退院したのは 38 人にのぼる。急性期はまずは 2 病棟に入院し、安定してさらなる治療ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝがあれば 5 病棟、1 病棟の開放病棟転に転棟している。2 病棟からの退院は 175 人（29.5 %）で、1 病棟からも 93 人（15.7%）が退院している。1 病棟からの退院者は 56 人が 2 病棟入院、15 人が 5 病棟入院後に 1 病棟からの退院である。3 病棟からは 28 人（4.7%)の退院である。



8　転帰

軽快退院が 9 割を占める。殆どが改善して退院しているのは大変喜ばしい。不変が 44 人(7.4%)、治療中断例が 14 人（2.4 %)であった。退院後に外来に繋がるのは 473 人と 8 割を占める。転入院したのは 22 人であった。入所は 1 人のみであった。

退院状態	外来の有無			入院
	有	無	総計	
軽快	448	87	535	7
治療中断	4	10	14	7
不変	21	23	44	8
総計	473	120	593	22
%	79.8%	20.2%	100.0%	3.7%

退院時満足度調査

平成 27 年度

1　対象

平成 27 年 1 月～ 12 月までの退院者 573 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 351 人(59.2%)を対象に分析を行った。回収率は前年度よりも下がっている。目標は 80%である。回収率は入院治療の満足度の高さの証明でもある。さらなる回収率向上を図りたい。前年度低かった 1 病棟の回収率が増えている。2 病棟の回収率は 4 割を切っているのは少なさ過ぎである。満足度調査の必要性を理解し、信頼性確保のためには回収率を上げる必要がある。

調査票の有無	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計
有	66	66	16	203	351
%	71.0%	37.7%	57.1%	68.4%	59.2%
総計	93	175	28	297	593

調査対象からは認知症、脳器質性疾患、緊急の転院、入院２日以内を除く。

対象者の基礎データ　　351 人

年齢　　12 歳～ 83 歳　平均 41.7 歳

性別　　男 ＝ 111(31.6 ％)

　　女 ＝ 240(68.4 ％)

入院期間　　3 ～ 2,468 日　平均 103.2 日

入院回数　　1 ～ 23 回　平均 2.5 回

初回 ＝ 187 (53.3%)、2 回目 ＝ 62 (17.7%)、

3 回目 ＝ 32(9.1%)、4 回目 =16（4.6%)

5 回目以上 =54（15.4%)

診断別・入院形態

F3（気分障害圏）が最多の 33.9 ％を占める。F4（神経症圏）の 25.9%、F2（統合失調症圏）は 19.7%の順である。

入院時の入院形態は 7 割が任意入院で医療保護入院は 3 割弱である。措置入院者が 0 人であった。

F分類	男	女	総計	%
F0	10	14	24	6.8%
F1	11	3	14	4.0%
F2	22	47	69	19.7%
F3	44	75	119	33.9%
F4	18	73	91	25.9%
F5	1	8	9	2.6%
F6		3	3	0.9%
F7		3	3	0.9%
F8	5	9	14	4.0%
F9		5	5	1.4%
総計	111	240	351	100.0%

	退院形態		総計	割合
入院形態	任意	医療保護		
任意	254	3	257	73.2%
医療保護	68	26	94	26.8%
総計	322	29	351	100.0%

2　方法

1．入院治療についての全体的満足度

　　CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)

2．入院に際する説明、入院中の治療に対する説明

3．医師・看護婦などのｽﾀｯﾌに対する評価

4．入院生活の快適さ

5．家族の評価　　等の調査を行っている。

1	2	3	4
よくない 全くない 絶対ない	まあまあ そうでもない しない	よい だいたい する	とてもよい 大いによい 絶対する

3　結果

3-1　全体的満足度、ｽﾀｯﾌ評価、環境等

次ページ表の数字の％は「良い」「大変良い」の両者を合計したものを表す。「効果的な対処」が最も高く、93.4 ％が満足したと回答した。これは前年度と同様である。患者さんのﾆｰｽﾞに合わせ、何が困っているのか、その対処法についてのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内容が奏功していると思われる。「7 全体的な満足度」は 85.2%で昨年度と同様である。8 割を越えたのは、「2 望んだ治療か」「4 推薦するか」「8 治療に戻るか」である。最も低いのは「必要とした治療か」で 70.1 ％と昨年度よりも上昇している。精神科には入院したくないとの思いが当然あるので、低い数字になるのかもしれない。精神科医療への期待度が高いとどうしても不満と答える方が増えてしまう。

ｽﾀｯﾌへの評価は、医師、看護師が 85%前後である一方、他のｽﾀｯﾌ（心理士、作業療法士、PSW）への評価が高い。事務員の応対の満足度が低いが、それでも 8 割弱が満足しているという結果で

ある。入院時や入院中の説明には 9 割近くの方が満足していると回答している。作業療法室の満足度は高いものではない。病室の広さの満足度が最も低い。個室、大部屋の違いも検討する必要がある。

CSQ-8J	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
1治療の質	7	86	148	110	258	73.5%	351
2望んだ治療か	7	42	204	98	302	86.0%	351
3必要としたか	6	99	174	72	246	70.1%	351
4推薦するか	9	41	234	67	301	85.8%	351
5時間をかけた援助	9	45	197	100	297	84.6%	351
6効果的な対処	7	16	189	139	328	93.4%	351
7全体の満足	10	42	195	104	299	85.2%	351
8治療に戻るか	23	41	209	78	287	81.8%	351
スタッフ評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
9事務員の応対	8	71	143	119	262	76.8%	341
10看護婦	7	44	123	170	293	85.2%	344
11医師	15	41	135	150	285	83.6%	341
12他のスタッフ	6	23	138	178	316	91.6%	345
説明・環境等	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
13入院の説明	5	26	147	156	303	90.7%	334
14入院中の説明	4	29	151	139	290	89.8%	323
15入院生活の快適さ	24	92	118	94	212	64.6%	328
16a病室の広さ	16	67	219	30	249	75.0%	332
16b廊下幅	7	47	227	52	279	83.8%	333
16cデイルーム	16	69	182	62	244	74.2%	329
17医療費	19	82	180	16	196	66.0%	297
家族の評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
21入院説明	2	6	84	131	215	96.4%	223
22入院中の説明	4	27	115	69	184	85.6%	215
23事務員	4	44	127	54	181	79.0%	229
24看護婦	4	23	109	89	198	88.0%	225
25医師	8	26	108	84	192	85.0%	226
26他のスタッフ	1	23	106	83	189	88.7%	213
27医療費	12	50	140	8	148	70.5%	210
28全体の満足	8	16	110	88	198	89.2%	222

3-2 「全体的満足度」の「とても不満」の回答者

「全体的満足度」で「とても不満」と回答したのは 10 人、前年度の 5 人に比べて多い。因みに、平成 25 年度は 9 人、平成 24 年度は 16 人であった。F 分類、疾患別での傾向はないようである。医療保護での入院者が多い。「とても不満」と回答していても 2 人の転院者を除いて当院に通院している。本人が不満と答えていても家族の満足度は、1 人を除いて 5 人が「良い以上」の満足度を示している。

「看護師の皆さんをはじめ、OT さん、ワーカーさん、Dr、心理士さん、大変お世話になりました。社会復帰を目指すものとして、患者としてたくさん学ぶことがありました。入院中の経験や学びを活かしてより自分らしく生きていけるように頑張りたいと思います。」「先生も看護師さんも OT さんも皆が親身になって接してくれて、とても充実した入院生活が出来ました。」などのｺﾒﾝﾄを戴いている。

また、家族がとても不満と回答したのは 8 人である。1 人は、本人ともに「とても不満」という結果になってしまった。せっかく治療をしているのに残念な結果であった。家族が不満であっても、患者本人は満足と答えているのが 4 人と半分を占めている。

全体の満足度が「とても不満」回答者

年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	ﾃﾞｲｹｱ	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ8J
50歳代	男	71	1	F3	2病棟	5病棟	医療保護	任意	有	無	無	1		8
40歳代	女	80	6	F1	2病棟	2病棟	医療保護	任意	有	無	無	1		17
10歳代	男	65	1	F8	5病棟	2病棟	任意	医療保護	有	無	無	1	3	13
60歳代	女	85	1	F2	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	有	無	無	1	4	22
20歳代	女	9	2	F4	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	1		9
10歳代	女	85	1	F8	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	無	無	外来	1	3	14
50歳代	女	63	2	F0	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	有	無	無	1	4	23
60歳代	男	81	1	F0	2病棟	1病棟	任意	任意	有	無	無	1	4	20
20歳代	女	25	3	F4	2病棟	2病棟	医療保護	任意	有	有	無	1		8
30歳代	女	28	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	1	1	9

家族の全体の満足度が「とても不満」回答者

年代	性	入院期間	回数	F	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	ﾃﾞｲｹｱ	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ8J
40歳代	女	63	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	3	1	18
30歳代	女	176	10	F3	2病棟	1病棟	医療保護	任意	有	有	無	3	1	21
30歳代	女	90	2	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	2	1	19
40歳代	女	31	1	F4	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	4	1	31
30歳代	女	263	1	F4	2病棟	1病棟	医療保護	任意	有	無	無	4	1	29
70歳代	女	156	1	F3	2病棟	1病棟	医療保護	任意	有	無	無	2	1	22
20歳代	女	90	1	F4	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	2	1	19
30歳代	女	28	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	1	1	9

満足度調査の目的

1. 顧客の声を正確に把握する

患者に直接聞くことで本当の満足度調査ができ、ニーズにあった調査票を作成することにより定量データもとることができる。

2. サービスレベル向上策の実施

患者の声の中で最も評価された点、課題だと思われる点を優先順位を緊急度、重要度を加味して整理する。その上で「すぐできる対策」「中長期にわたって実施すること」を決めて実施する。

3. 新たなニーズ、サービスの発掘

患者の声から新たなニーズを発見することも可能である。日々のサポートに追われ気がつかなかったニーズやサービスの芽を発見できる。

「満足度調査」は患者さんから「どのような評価を受けているか」という現状把握をし、患者さんの視点に立って、「院内改善活動に取り組むための問題点および課題」を明確化し、改善点を浮き彫りにすることが出来ます。

臨床治験について

治験とは国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことです。
治験では、新しく開発された薬の人での有効性（ 効き目）や安全性（ 副作用）などを確認します。現在、世界中で数多くの薬が使われていますが未だに有効な治療薬がない病気も多くあります。これらの病気に対しては効果のある新しい薬の開発が必要です。そのため世界中で新しい医薬品の開発を目指して治験が行われてます。当院では積極的に治験に取り組み、新たな薬剤開発に協力しています。
治験審査委員会（ IRB）は毎月開催し、治験内容について審議しています。

IRB審議内容

1. 開催日時：2015 年12 月24 日（木）12：00 ～

2. 場所：医療法人社団 五稜会病院 医局

出席者：坂岡ウメ子、長谷川聡、吉野賀寿美、田中倉一、泉純一、阿部重子 6 名中／ 名

3. 審議内容

1. 大塚製薬株式会社より依頼

（治験実施施設：五稜会病院）

＊「双極Ｉ型障害患者を対象としたアリピプラゾール（OPC-14597）IM デポ注射剤の維持療法の有効性、安全性及び忍容性を評価する、52 週間の多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験【31-08-250】」（治験実施施設：札幌佐藤病院）

＊「アルツハイマー型認知症に伴う行動障害に対するアリピプラゾール（OPC-14597）の有効性、安全性を検討する、多施設共同、プラセボ対照、無作為化、二重盲検、並行群間比較試験【031-13-001】」

審議事項：【共通】安全性情報、【31-08-250】治験・契約期間延長、【031-13-001】治験薬概要書及び追補改訂（治験実施施設：五稜会病院、札幌こぶし CL、札幌ひいらぎ CL）

＊「大うつ病性障害患者を対象とした ASC-01 の有効性及び安全性を評価する多施設共同，無作為化，二重盲検試験」

審議・報告事項：安全性情報（治験実施施設：五稜会病院）

＊「アルコール依存症患者におけるナルメフェンの飲酒量の低減に対する効果を検証する多施設共同，無作為化，二重盲検，プラセボ対照，並行 3 群間比較試験（第Ⅲ相試験）【339-14-001】」

＊「アルコール依存症患者におけるナルメフェンの第Ⅲ相試験（339-14-001）の継続長期投与試験（長期投与試験）【339-14-002】」

審議事項：安全性情報

2. 大日本住友製薬株式会社より依頼

（治験実施施設：札幌佐藤病院、村上病院、雁の巣病院）

＊「SM-13496 の双極Ｉ型障害の大うつ病エピソードの患者を対象としたランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験【D1002001】」

＊「SM-13496 の双極Ｉ型障害患者を対象とした長期投与試験【D1002002】」

審議事項：安全性情報、継続審査

3. Meiji Seika ファルマ株式会社より依頼

（治験実施施設：五稜会病院）

＊「ME2112 の急性憎悪期統合失調症患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較による検証的試験（第Ⅲ相）【ME2112-2】」

＊「ME2112 の統合失調症患者を対象とした長期投与試験（第Ⅲ相）【ME2112-3】」

審議事項：安全性情報

（治験実施施設：ファミリーメンタル CL）

＊「SME3110（フルボキサミンマレイン塩酸）の小児強迫性障害患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験」

審議事項：安全性情報